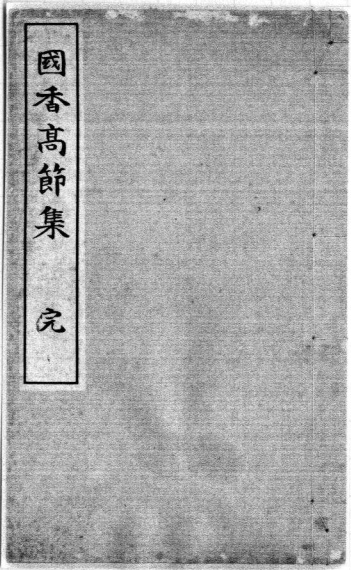


新居湘香 しやうかう 漢學者。嘉永二年九月二十九日阿波國徳島生れ、大正六年二月二十三日歿（一八〇一—一九七）。諱敦、字臨吉、通稱敦二郎。別號半峰、清虛。父は徳島藩儒新居水竹、明治二年罪せられ、切腹を命ぜられるも、家の斷絶は免がれ後を繼いだ。五年上京して慶應義塾に入り英書を學ぶ。七年小室信夫等の政治結社自助社設立に参劃、自由民権説を鼓吹。翌年社員と共に通諭書と稱し配布したわい廉で、社長井上高格等共々下獄。十一年満期出獄後、外叔林厚徳所有卓然社發刊の『新聞集誌』編輯に従事。翌年徳島師範學校訓導兼監事となり、傍ら私塾を開いて教授。爾後徳島縣屬、北海道廳屬、東京府學務課雇、貴族院雇、大藏省調査局屬等勤務。二十六年札幌農學校漢學講師の囑託を受け、翌年助教兼書記、四十年大學組織となるや豫科助教兼大學學書記に任じ、庶務課長となつた。

回顧談『講演速記録』（新居敦二郎名、第七輯・大正二年十一月編言、維新史料編纂會）の他、還曆祝賀詞集『國香高節集』（明治四十二年十一月—二十三年札幌・梁田政輔編刊）がある。



國香高節集 完